

GREEN RANGER NEWS

2025年12月号 Vol.376



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下101 番地1
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

来年は希望の持てる年となりますように！

長い酷暑の後の短い秋が終わり、いよいよ冬がやってきました。皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。

今年も、蔵王のブナと水を守る会へご協力とご支援を頂き、ありがとうございました。

今年の夏は酷暑が続き雨も少なかったのですが、なぜか活動日である日曜日は雨が多く、何度か中止となりました。また、木の実の大凶作により各地でクマ出没騒動があり、当会としても初めて活動を自粛せざるを得ない状況にもなりました。今まで経験のないことです。動物観察用のカメラにはクマが何度も写っていましたが、会員と遭遇することは起きずにはいます。木の実の凶作は、クマばかりでなくリスをはじめ他の動物たちへの影響も心配です。何とか冬を越してほしいと祈るばかりです。

酷暑の影響はあるものの、植林した木々は大きく育っています。来年はぜひ、みんなで育てた森へいらしてください。特に、マイツリーに協力して頂いた皆さん、ご自分の木に会いに来ませんか。

様々なことが起きた2025年も間もなく終ります。来年は希望の持てる年となりますように！

●11月23日(日) 荒浜海岸植林地

今日は気持ちよく晴れて風もない。会の定例会は雨が多いけれど、海岸林での活動日は晴れることが多い嬉しい。雪をかぶった蔵王を背にして、荒浜海岸へと向かう。

今日の作業は、枝打ちと樹高の計測。枝打ちは順調に進んだが、計測チームではひと騒動あり。樹木名を書いた杭がなかなか見つけられず、「杭が無くなっている！」「まだ腐るはずがないのに、杭が消えた！」と大騒ぎになった。端から順に杭を見つけて計測していくのに、終わってみると半分しか計測できていない。慌てて探すけれど、見つからない。その内、「ここに1本あるよ～」の声があり、計測していると、向こうからも「こっちにも1本あるよ～」の声が続く。その後、もう一度目を皿のようにして端から順に見ていく、やっと48本すべてを計測することができた。この様子を見ていたSさんが、「今、杭の地図を作っているから」と見せてくれた。ああ、これで来年から杭探しが楽になる。

作業を終えて、仲村さんから海岸林の生育状況について、南側は順調に育っているが北側や中央部分の生育が悪いとの説明があった（詳しくは別紙報告書を参照）。12月7日の定例会は中止だが、カメラ班は今年最後の仕事があるため、11月29日に集まることになった。クマには十分注意してくださいね！！（参加者：8名）



通路より南側



通路より北側



仲村さんによる植林地の現況説明

荒浜海岸植林地 調査木計測調査表 2019~

※ パイオニアプラント(単位cm)

ヤマハンノキ

○印：2025年7月・8月に活性剤散布

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	105	155	230	400	520	590	644			
②	105	165	220	350	450	530	575			
③	135	216	300	400	550	610	690			
④	120	180	300	400	500	600	690			
⑤	155	226	350	500	600	610	680			

シロヤナギ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	50	40	84	170	200	205	270			
②	20	54	76	105	130	140	146			

ハンノキ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	—	92	130	290	320	見つからず	480			

オオバヤシャブシ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	45	110	210	350	350	390	330			

※ 一般種(単位cm)

1.ケヤキ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	140	125	120	140	157	220	213			
②	115	136	138	160	195	210	268			
③	105	90	80	100	103	140	110			
④	110	98	90	95	94	118	94			
⑤	130	110	103	50	54	54	○56			
⑥	145	126	115	130	140	164	130			
⑦	140	130	125	125	125	116	116			
⑧	120	115	110	165	160	150	165			
⑨	140	140	88	80	88	90	○91			
⑩	140	110	115	115	110	97	99			

2.コナラ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	85	55	35	36	55	55	○58			
②	110	35	32	50	54	95	120			
③	150	102	109	180	215	270	233			
④	110	85	62	95	135	155	165			
⑤	120	116	114	145	165	185	191			

3.カスミザクラ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	88	80	50	90	94	枯死	×	×	×	×
②	125	120	71	55	70	52	53			
③	170	170	149	170	200	210	233			
④	110	110	40	87	36	35	64			
⑤	95	90	35	16	14	18	○32			

4.アカシデ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	70	66	24	10	枯死	×	×	×	×	×
②	80	45	21	27	39	36	○60			
③	70	67	17	34	70	84	95			

5.イヌシデ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	120	98	70	95	175	220	164			
②	130	140	140	160	195	260	235			
③	115	125	110	235	250	330	303			

6.ウワミズザクラザクラ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	60	45	24	24	15	105	139			
②	95	55	54	48	10	40	○32			
③	90	80	50	25	28	10	枯死	×	×	×
④	70	30	26	23	9	26	枯死	×	×	×
⑤	105	110	114	123	130	145	154			

7.アベマキ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	75	80	78	88	80	78	99			
②	98	100	80	77	103	168	200			
③	104	100	90	138	168	175	189			
④	85	105	116	105	125	218	238			
⑤	90	100	100	70	60	67	○71			

8.ミズキ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	50	48	53	52	61	102	103			
②	70	80	67	68	92	126	120			
③	115	40	40	40	43	45	○58			

9.イタヤカエデ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	55	60	37	98	118	115	99			
②	60	30	12	10	11	13	○16			

10.ブナ

No\計測年	2019.07	2020.07	2021.07	2022.11	2023.11	2024.11	2025.11			
①	45	24	25	53	84	86	○95			
②				2023.11.26 植林	29	枯死	×	×	×	×
③				"	39	枯死	×	×	×	×

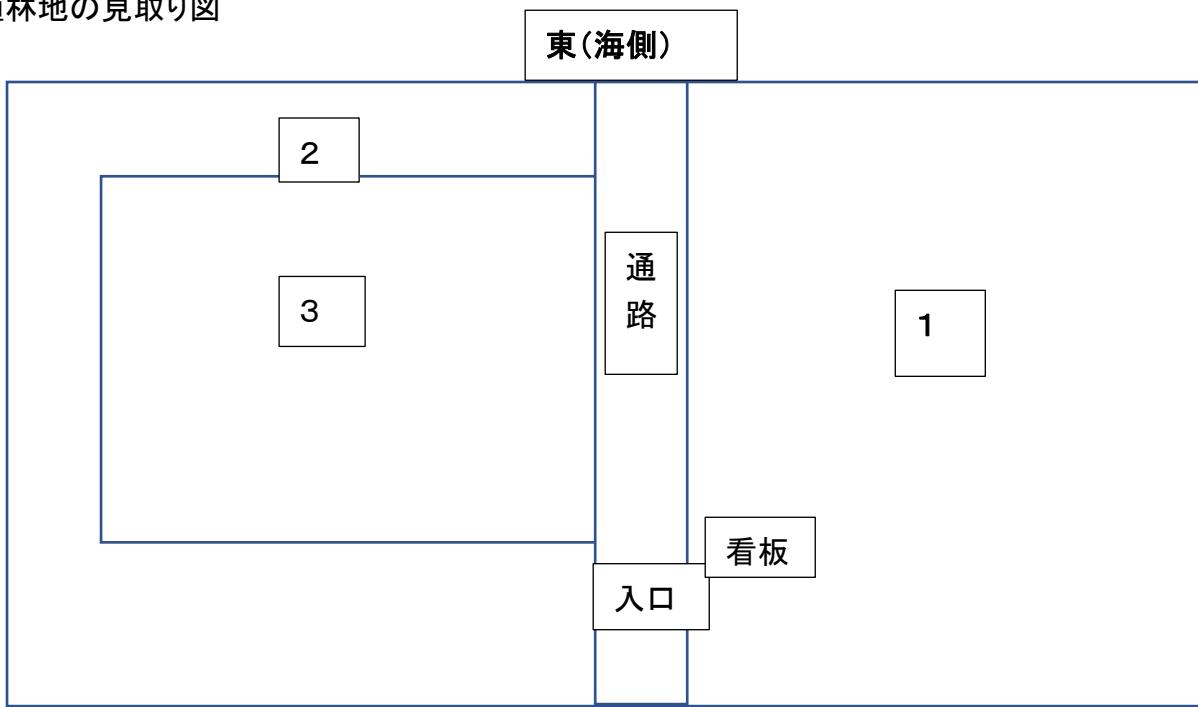
11.イヌザクラ

No\計測年						2025.7	2025.1			
①						30	○29			

荒浜海岸：植林地の現況

仲村得喜秀

植林地の見取り図



植林地を成長の度合いから分けると、図の①②③ということになる。

① について

ここは全体として伸びの良い場所となり、樹種と本数は以下の通りである。

- * 優良樹種・・・アベマキ（21本）、イヌシデ（3本）、ケヤキ（9本）、コナラ（1本）

- * 次に準ずる樹種・・・アカシデ（5本）、サクラ類（7本）、ミズキ（4本）、イタヤカエデ（3本）、クマノミズキ（1本）

② について

ここは①に次いで伸びのいい地域である。樹種と本数は以下の通り。

- * 優良樹種・・・アベマキ（29本）、コナラ（11本）、ケヤキ（47本）、イヌシデ（4本）、サクラ類（2本）

- * 次に準ずる樹種・・・イタヤカエデ（1本）、サクラ類（2本）、ミズキ（2本）、アカシデ（4本）、ウワミズザクラ（1本）、クマノミズキ（1本）

③ について

ここは①を除いた全体の中央部で、一番伸びの悪い場所である。いじけたケヤキがそのほとんどを占めている。他の樹種では枯死したものが、一番多く出た場所でもある。周辺部が成長すると同時に回復してくると思われるが、当分はこのまま見守るしかない。ここでの樹種と數の計測は行わなかった。

まとめ

樹木が伸びていくための要素は、風と光と土壤養分と言える。ここは海岸なので、塩分に対する耐性も入ってくると思われる。周辺部のクロマツ植の植林地は、急速に伸び始めている。マツ類は元々、乾燥、強風、やせ地といった粗悪環境に強い木で、逆に言えば、他の樹種が生きられない場所でも生きていける木という

ことである。

この植林地の中で①が一番伸びがいいのは誰が見ても明らかで、一部ではヤマハンノキの間伐を行った。ケヤキやアベマキの障害となっているからである。なぜここだけがこんなに良いのかは、残念ながらわからない。次に伸びが良いのは、①を除く外周部である。外周部は光の当たりが良いので、光合成量が多く、伸びた原因の一つになっていると思われる。東側（海側）の外周部には、バーク（木材）が積んであったので、これが有機物の養分となっていて、これも伸びの良い要因となっていると思う。外周部の伸びがますますということは、風があまり障害とはなっていないと言える。

③は伸びについては、ほとんど止まったままの空白地帯と言える。ここ数年は夏の降水量が極端に少なく、全体的に夏の葉枯れを引き起こしているが、3の空白地帯の原因の一つの要素としては考えられる。塩害に関しては、枯れた樹種を調べていないので良くわからない。全体的に見て、5割以上の広さで、ますますの伸びが見られるので、いざれは③の地域も伸びてくれるものと思われる。

①と②では、今後必要に応じて、ヤマハンノキの間伐と枝打ち作業を行っていくことになる。

菌根菌について

仲村得喜秀

最近はこの種の出版物も多く、植物をやっている人にとっては常識になりつつあるようです。私も良くわかりませんが……。

*全ての植物は菌根菌と共生していると言われている。

*樹木の7割は、アーバスキュラー菌根菌と共生している。

*この菌は樹木の根とつながっていて、その木の光合成量の2割のエネルギーで育成されている。土の中には目に見えない菌糸が張り巡らされているという。

*この菌根菌の役割は、土壤中の①水分の吸収、②リン酸などの養分の吸収、③病菌などの阻止である。

他にも土壤中の他の樹木の菌根菌とつながり、ネットワークを作り、養分や水分のやり取りもしているという。

*菌根菌は共生菌なので、樹木とお互い助け合う関係である。

*他にもラン科の植物の共生菌は、ラン菌と言われている。ランの種子は芥子粒ほども小さく、種子の中に発芽させる子房を持っていないので、自力では発芽できない。土の中のラン菌と結びつくことで養分をいただき、発芽できるのだという。他にも共生菌である菌根菌には多様なものがあるらしい。

●11月29日(土) 動物観察カメラ班 今年最後の活動

12月の定例会は中止となつたが、動物観察カメラ班は年末の仕事が残つてゐるため、作業小屋へ向かう。青く澄んだ空に、蔵王の屏風岳山頂の雪が美しい。途中の道路も補修され、凸凹が無く白線がくつきり。初冬の日差しはやわらかく、快適なドライブ日和。

今日は3人で活動開始。クマよけの鈴をつけて、最初に作業小屋から彩遊の森の水場へ向かう。駐車場や幹線道路が刈り払われていて歩きやすい。木々は葉を落とし下草もわずか。森の中は静かで動物の気配は全くない。カメラから撮影済みのカードを取り出し、新しいカードを入れて無事終了。

2か所目は、アナグマの森のアナグマの穴。運動会で使うようなピストルを鳴らしてから歩き出す。昨夜の強風の影響か、途中で倒木や枝折れが何本もあった。アナグマの穴付近では、最近アナグマが活動しているように見えなかつた。カメラは、なんと作動していない！電池を取り換えてダメで、残念ながら持ち帰つて修理することにした。

3か所目は、リスの森のツリーhausの下とターザンロープの傍。無事に設置完了。

この近くにある平均台はクマのお気に入りのようだ。何度もカメラに写つてゐた。クマが歩くこの道を、自分も歩く。去年までは、『クマがすむ森は、なんと豊かな森なのだろう…』と思いつながら、楽しくこの道を歩いていた。

ところが、今年は木の実が大凶作で、秋田や岩手、宮城県内でもクマが人里へ降りて駆除されている。「森にすむクマたちよ、決して人里へ行かないで！」と祈るしかないのである。

なんとか冬眠して欲しい、と思いながら帰宅の途に就いた。

(参加者:3名)



水場



作業小屋



ツリーhaus



針広混交林

●今後の活動について

12月7日の定例会は中止ですので、今年の活動はすべて終了しました。